

今日のトピック 米国の金融政策（2015年9月）

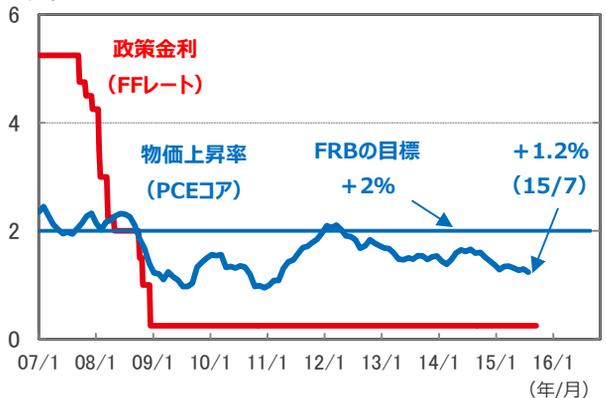
海外情勢への懸念から利上げを見送り

ポイント1 海外情勢が不安定化

国内景気の評価は上方修正

- 9月16日～17日の米連邦公開市場委員会（FOMC）で、事前の予想通り現行の低金利政策の維持が決定されました。
- 声明文では、「世界経済および金融情勢が経済活動を幾分抑制し、短期的にインフレを一段と抑制する要因になりうる」との懸念が示されました。
- 一方、国内景気に対する評価は前回と同様、「緩やかに拡大」でした。ただ、設備投資の評価が上方修正されていることなどを踏まえると、より前向きになったと考えられます。

政策金利と物価上昇率の推移



(注1) FFLレートは2007年1月5日～2015年9月17日。2008年12月以降のFFLレートはターゲットレンジ0.00%～0.25%の上限を表示。
(注2) 物価上昇率は2007年1月～2015年7月。PCE（個人消費支出）コア物価指数の前年同月比。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 政策金利見通しは下方修正

失業率、物価上昇率も下方修正

- 四半期経済予測では、2015年の成長率見通しが上方修正される一方、16年が下方修正されました。失業率と物価上昇率は15年、16年ともに概ね下方修正されました。
- 政策金利の見通しについては、両年とも下方修正されましたが、大半のメンバーは年内の利上げ開始を予想しています。

FOMC参加者の経済見通し（9月）

		2015年	2016年
GDP	9月予測	2.0～2.3	2.2～2.6
	6月予測	1.8～2.0	2.4～2.7
失業率	9月予測	5.0～5.1	4.7～4.9
	6月予測	5.2～5.3	4.9～5.1
物価	9月予測	1.3～1.4	1.5～1.8
	6月予測	1.3～1.4	1.6～1.9
政策金利	9月予測	0.1～0.6	1.1～2.1
	6月予測	0.4～0.9	1.4～2.4

(注1) 単位は%。
(注2) FRBメンバーと地区連銀総裁の予想から上下3つを除く中心レンジ。
(注3) GDPと物価は第4四半期の前年同期比。
(注4) 物価はPCE(個人消費支出)コア物価指数の上昇率。
(注5) 政策金利はフェデラルファンドレート。
(出所) FRBのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 利上げ後ズレの可能性も

- 据え置きを決定したにもかかわらず、近い将来の利上げを示唆するようなコメントは見られませんでした。さらに、金利見通しでも、15年、16年にマイナス金利を予想するメンバーが1人いました。これらの点を総合すると、ハト派的な内容だったといえます。
- 年内に利上げを開始すると予想されますが、後ズレする可能性もあると考えられます。

ここもチェック! 2015年 9月14日 米国の「物価」上昇率は低位安定（米国）
2015年 9月 7日 米国の雇用統計（2015年8月）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。